NPO法人

JSRC

2015年12月10日

第28号

Jomon Shiba

特定非営利活動法人

縄文柴犬研究センター

NPO法人 JSRC

Jomon Shiba

第 28号

もくじ

縄文柴犬の大きさなどについて考える-「目安」について　☆五味靖嘉 …… 2

シバの散歩道-(28)　☆JSRC理事　根深 誠 …… 6

お便りコーナー　☆和歌山県　西川直美　☆鳥取県　畠中秀平
☆秋田県　金沢　聡　☆神奈川県　佐藤キヌ子 …… 10

ミニ交流会「南郷庵」に集う
☆[南郷庵]に集う　和歌山県　土山仁美
☆豆タンクの帰還に鉄人を想う　京都府　金　平雄 …… 11

☆「良子」の近況No.19　竹内誠一　☆北海道　越田洋子 …… 12
☆二歳になって　和歌山県 土山仁美 …… 13
☆キュ-の近況報告 石川県　黒梅　明 …… 15
☆縄文柴犬「竜太」と暮らして JSRC理事長 橘　宏 …… 16
☆豆タンクの行方不明から生還まで (MLメンバ-) …… 17

事務所報告
☆新入会　☆会費　☆寄付金　☆保存協力金　☆犬舎登録　☆仔犬登録　☆寄贈 …… 20

八ヶ岳（パステル）

本年度の会費送金を忘れている方がおりますので、年内に振込をお願い致します。
会誌29号の発行予定は、2016.3.1予定です。原稿の締め切りは、45日前(2016.1.15)です。

・会費や寄附などをお寄せいただいた方の氏名・県名を掲載させていただきますが、匿名を希望される場合は、お知らせください。

特定非営利活動法人　縄文柴犬研究センター

会事務所　**郵便振替口座**　02280-2-106951
〒　014-0073　**秋田県大仙市内小友字堂ノ前119番地5**　TEL　0187-68-2976
http://www.jomon-shiba.com/　encounter_shiba@jomon-shiba.sakura.ne.jp

縄文柴犬の大きさなどについて考える －「目安」について

五　味　靖　嘉

本稿で取り上げる縄文柴犬の体高問題については、私が最初に報告したのが1997年頃です。その後、基礎的な計測資料を継続しつつ積み重ね、今回は頭骨測定を加えましたが、考えている内容からすると、まだ中間点です。この問題には単なる「数字」ではなく、広義の内容が含まれているのではないかと考えるようになりました。所謂、犬種団体の「〇〇犬審査標準」の「標準」という言葉の概念は、「規格」という枠の中で「捉える・観る」ことになります。

一方JSRCでは、科学的成果に学ぶという基本方針に沿って、縄文柴犬の見方を深める、と言う共通の理解を深化させることが大事だと考えています。従って「縄文柴犬審査基準」とし、基準は一定の「目安」と捉える方がより正しい理解になると考えました。

「〇〇犬標準」とは、そうした見地から考えると一定の枠を越える様な場合「規格外」という解釈を生ずる場合もあります。人が犬を「審査・評価」するために必要な考え方としては、「規格」とする固定的で断定的な見方があり、「基準」の場合と、解釈が違う事になります。

ご存知の通り、昭和の初期{1930年代}の「標準」という考え方には、「規格(外)」という概念は無かったと私は理解しています。　(2012.3・五味)

冒頭にも触れましたが、縄文柴犬の体高データとして、何度か資料の整理や測定を試みましたが、体高の定義が曖昧な場合が多く、集積した資料には約3～5cm以上の誤差も見受けられました。また、”物語－日本オオカミ(3)（1998・五味）”の中で、犬や日本狼の大小に触れてその考えを述べてみました。

以上のような考え方の経過を整理すると、例えば、素晴らしい素質要素があるにも関わらず、絶対数値が大きいから規格外とするのか、或いは、特質が貴重なので後世に残すのか、という現実問題に対応する必要があり、その選択肢は重要となるのです。(図1参照)

図1→

↑縄文時代の犬と縄文柴犬の頭骨比較

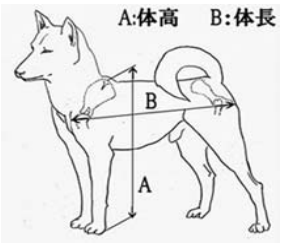
左 A:田柄貝塚3号,頭骨最大長160.8mm成犬.　　右 B:縄文柴犬No.33,頭骨最大長160.8mm♂4歳.

表1→

縄文柴犬の体高調査(注1)単位cm						頭骨測定　単位mm		
調査年度	個体数	性	最大値	最小値	平均値	縄文柴犬	田柄貝塚	分類(注2)
1997	49	♂	46.5	33	40.5	163.73	163.78	中小
2015	15		46.5	38	41.3			
1997	61	♀	42	31	36.4	155.7	150.3	中小
2015	26		41	34	36.5			

注1：1歳齢以上　　注2：長谷部による犬の5段階分類

(表中の体高値は肩甲骨上端での測定未確認が含まれる)



↑図2　体高測定概念図

(A=肩甲骨の上端で測る)

体高と頭骨

上記で触れたように、飼育中の縄文柴犬の体高測定(一歳齢以上)を集約し、その結果を表１にまとめました。参考に各日本犬の体高と頭骨最大長も、表２にまとめました。

頭骨では、縄文時代後期の田柄貝塚の出土(1984・茂原、小野寺)と縄文柴犬を比較すると、雄はほぼ横ばいという数値になるが、雌は大型化しています。一方、体高では、1997年頃と15年後の2015年では雄が0.8cm、雌では0.06cm大型化していることになります。測定調査はまだ中間点にあるため、後日改めて報告したい。

体高測定基準定義に合致した個体選別作業中です。

この中で、雄の頭骨最大長163.78mmは現況・縄文柴犬の体高が41.3cmになります。雌の頭骨では150.3mmであり体高が36.4cmという値になります。

雄の最大値は46.5cm(この46.5cmというのは、図１肩甲骨上端の測定が確認出来ないが報告のまま扱いました)、最小値は33cm、雌の最大値42.0cm、最小値31.0cmと言う事でした。(図3参照)

シートン動物誌(1997)でも自然界の哺乳動物の大小が述べられており、中には倍以上の個体も出現・観察したことが述べられています。

ニホンオオカミの丹沢産、最小の頭骨全長は203.5mm、直良氏(1965)は226mmでした。高知県・仁淀村の頭骨全長は235.78mm(2001・安倍)。九州・平尾台では全長242mm(2004・長谷川)。この他、発見され中世以降の頭骨は、全国に76点(2004)、剥製は国内に3体・国外に2体、全身骨格では1体が、国立科学博物館に残されているだけです。

このニホンオオカミの大きさを考えた場合、頭骨と体高の比率を、日本犬それぞれ「表2」から、平均値の算出をしました。その値を日本犬に置き換えるならば、頭骨最小が中型犬より大きく、頭骨最大は大型犬の最大くらい、となります。(図4 参照)

野生の哺乳動物の大小には相当な許容範囲があり、小型の肉食獣が大型の草食動物を捕食する、と言うシーンはテレビなどでも放映され決して珍しいことではありません。それに近い現象と言えるのが、縄文柴犬にも当てはまります。平均的な大きさの縄文柴犬が、家畜である牛とか豚の鼻面をめざして攻撃的に噛む、大型の熊を追跡し後肢をめがけ攻撃する行動やイノシシ・ニホンシカ・ニホンカモシカなどを獲物として脚を狙い攻撃します。キツネ・タヌキ・アナグマ・ウサギ・リス・イタチ類・各種のヘビ、キジ・ヤマドリ等鳥

表２↓(表2は、1980在来家畜研究会報告 より)

*1:四国犬は太田測定による。*2:紀州犬頭骨は五味所蔵の測定による。 *3:2012.3五味測定。

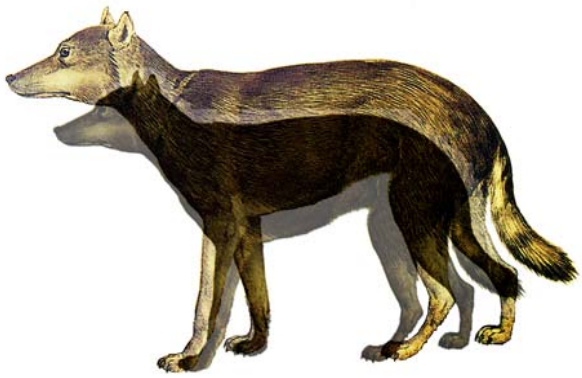
日本犬	性	体高	頭骨全長
		小ー大	小ー大
秋田犬	♂	64-70	214.9-224.3
	♀	58-64	-
北海道犬	♂	48.5-51.5	151-194.2
	♀	45.3-48.5	168
紀州犬	♂	50-54	184.5 *2
	♀	46-50	-
四国犬 *1	♂	49-55	178.8-185.8
	♀	46-52	172-193.1
甲斐犬	♂	40-50	161.5-181.6
	♀	40-50	136.7-172.6
縄文柴犬 *3	♂	33-46.5	146.4-181.5
	♀	31-42	144.6-175.4

↑図３　縄文柴犬の大小差

左：♂平均よりやや大きい　右：♀平均よりやや小さい

↓図４　ニホンオオカミの最大と最小差

注:この絵は、フイリップ・シーボルトの「ファウナ・ヤポニカ」(1833)を図形化した。



類を獲物や捕獲の対象とします。

地域差などからの変異現象という意味で引き合いに出されるのが、犬は飼い方次第だから“人工的に、どうにでもなる”から参考にならないと言う考え方があります。しかし、この考え方を拡張すれば、そのまま野生動物の生存する地域環境や条件が、個体の変異を左右するとした事実の見解と矛盾する事になりますので、余り意味がないと思います。

熊本県八代郡京丈山洞穴（1999･北村ほか)より産出した、ニホンオオカミ(室町～江戸初期)の全身骨格の報告では、中足骨試料から抽出したコラ- ゲンの分析によると、アワ・ ヒエ・ キビなどの穀物や海産物なども食していたのではないかと言う報告があります。ニホンオオカミは、必ず肉食であるとの考えも覆ったことになります。私はこれまでの犬の飼育経験から、食べ物が違えば顔貌や毛質、体型･骨格､感覚や運動能力までも影響が出ると考えております。

縄文柴犬の飼育条件と肥満

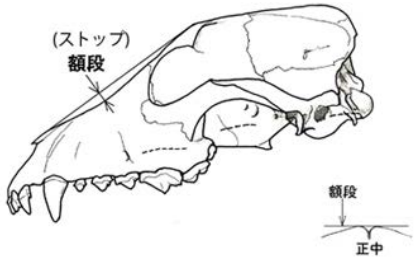
肥満遺伝子の存在が解明され､｢遺伝子｣としてNHK特集でも何度か取り扱われ周知の通りとなりました。また､肥満遺伝子を持っていない例でも､後天的カロリー過剰摂取によっても太る､と､そのような内容の番組でした｡この点は､人に限らず縄文柴犬にも該当します。(図5 参照)

A:雌が交尾前から、通常の平均的なカロリー摂取状態で受胎した場合､出産数の平均値は3頭です。B:多産が目的かどうかは別にして､交尾前から－受胎の時期に､過剰カロリー摂取状態にすると､通常は3頭平均の出産数が､5頭以上産まれることは良く見受けられます。

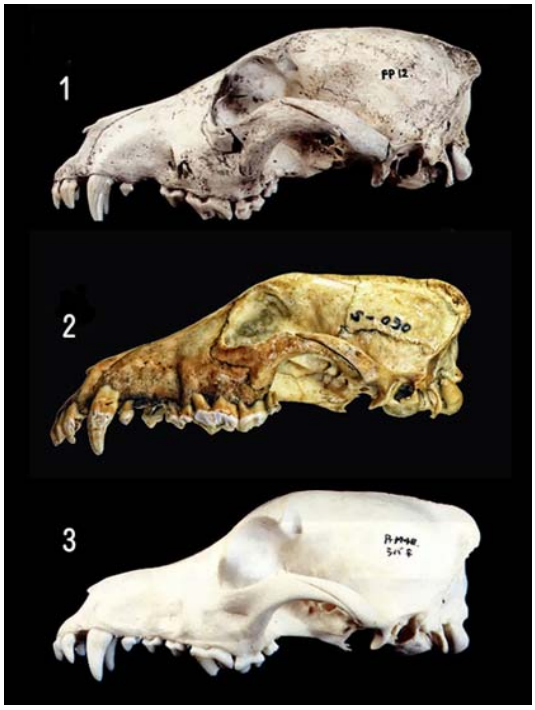
産まれた仔犬たちは平均のカロリー摂取状態でも、A群の仔犬と比較すると、B群の方は太りやすい傾向になります。従って、A群の縄文柴犬よりも、B群の方は

↑図5　縄文柴犬の体型↑
左：肥満状態の体型　右：平均的な体型

↓図6　額段(ストップ)の見方



↓図7　頭骨比較図(額段に注目)
1:縄文時代後期の頭骨　2:縄文柴犬　3:現生シバイヌ



多めにカロリーの消費を必要とします。これを裏付けていたのは､九州大の久保(1989)の報告に｢栄養不良でない程度の栄養制限によって、外来抗原に対する通常の免疫機能は保持され、一方、自己抗原の産生は抑制され､･･･｣つまり､総合的な結論は、肥満を制御することは世代を健康的に持続させる重要な目安になるということです。先に述べたように｢基準｣と考えるか｢標準｣とするか、と言う考え方について後者では生物学的に無理が生ずる事になります。

こうした縄文柴犬たちの現実を目のあたりにすると、体高とか体重の問題はやはり「平均値」が重要な目安という捉え方となり、縄文柴犬としての評価（性能）などと深く関わる点は無視できないのです。

茂原信生(1987)は｢縄文時代のイヌは､前頭部から鼻先にかけて直線的で､野生のオオカミに似ている｡咬筋がつく頬骨弓は太くて頑丈で､左右の張出は小さく､上下方向に強い噛む力をもたらしていたはずである。ま

た、側頭筋のつく頭頂骨の部分は広く、正中部に矢状隆起が良く発達していて、側頭筋のつく面積を増やしている。特に外後頭隆起の部分が著しく後方へ飛び出しているのが特徴である。」と述べています。(図1・7参照)

縄文柴犬を他の犬と区別し研究しなければならない理由は、縄文時代のイヌと相似性・原種性があるということです。JSRCに求められているのは、考古学・形態学・生化学・遺伝学・人類学・その他の研究成果にどう対応しているか、ということです。

縄文柴犬は、およそ1万年の尺度で捉えると、意図的人工的に改良を目的とされなかった、と、研究成果では述べられています。わが国が、ユーラシア大陸から離れ島国となり温暖となった時期、地質年代では更新世の終わり、完新世の始まりの11,500年前頃から縄文文化が始まったとされています。考古学上では、土器と弓矢の出現による狩猟があり、そのころからヒトとイヌの協働が始まったと考えられます。

縄文柴犬は新しい犬種ではなく、日本の在来種と捉えることが出来ます。縄文柴犬の成り立ち、その活動の背景には、科学的な成果を無視し「主観的」な考えを持ち込むなど、様々な紆余曲折もありました。重要な点は、滔々と流れる歴史から学び、保存継承の科学的な論理構成と、イヌの起源と未来への研究・理論などの研鑽が極めて重要だと理解する必要があると思うのです。

縄文柴犬は小型で額が広く、後頭部は発達し、額段は浅く(図6・7参照)、顔貌は面長で、口吻部は太く頑丈です。そして、鋭敏な感覚を持ち、俊敏で敏捷、野生動物と対峙するなどの勇猛性があり、原種性、野性動物的な風貌を兼ね備えています。一方、縄文柴犬は飼育環境・条件での、優れた順応性・適応性があります。

こうした歴史的な成果を、総合的に判断して、絶やすことなく作出することが私たちに求められています。飼い主には忠誠心のように心服、信頼関係が育まれるなど、縄文柴犬は素朴で忍耐強い特性を持ち、多くの方々に郷愁やロマンをかきたてられるのです。

(2003.8.25・2015.9.25改記)

文 献

斉藤弘吉,1964.日本の犬と狼・雪華社.東京.

直良信夫,1965.日本産狼の研究・校倉書房.東京.

千葉徳爾,1969~1990.狩猟伝承研究-全巻.㷀風間書房.東京.

白石　哲訳, 1977. オオカミとイヌ.思索社.東京.

小原秀雄・根津真幸訳,1977.オオカミよ,なげくな. 㷀紀伊国屋書店.東京.

社団法人日本犬保存会,1978.日本犬保存会創立50周年史. 上下巻,東京.

在来家畜研究会報告,1980.在来家畜研究会.名古屋.

平岩米吉,1981.狼-その生態と歴史.池田書店.東京.

茂原信生・小野寺覚,1984.田柄貝塚出土の犬骨について.人類学雑誌.92(3),187-210.東京.

茂原信生・小野寺覚,1986.田柄貝塚出土犬骨の形態的特徴について,「田柄貝塚」.宮城県文化財調査報告書111集.589-672.宮城県.

茂原信生,1987.ヒトの咀嚼器官の未来を示すもの-歴史的実験としての将軍とイヌ. 歯界展望№70,4～70・6.医歯薬出版.東京.

遠藤公男,1988～1991.オオカミ物語.岩手日報.岩手.

小山　宏,1989.ニホンオオカミ-日本特産・絶滅種.北群馬郷土館.群馬.

小原巌,1990.神奈川県厚木市および愛甲郡清川村の民家に保存されているニホンオオカミの頭骨.神奈川自然誌資料.(11)53-65.

小原巌・中村一恵,1992.南足柄市郷土資料館所蔵の,いわゆるヤマイヌ頭骨について.神奈川.

今泉吉晴監訳,1997.シートン動物誌「オオカミの騎士道」. 㷀紀伊国屋書店.東京.

中村一恵ほか編,1998,7.オオカミとその仲間たち- 特別展図録.神奈川県立 生命の星・地球博物館.神奈川.

北村直司・小原巌・南雅代・中村俊夫,1999.熊本県八代郡泉村京丈山洞穴より産出したニホンオオカミ全身骨格.熊本.

久保千春,1999.栄養と自己免疫疾患.医薬の門社.東京.

安部みき子,2001.日本オオカミとモンゴルオオカミの頭骨について.フォレスト・コール.(8),22-23.埼玉.

茂原信生・江木直子,2002.荒井猫田遺跡出土の中世ニホンオオカミの全身骨格.福島.

小原巌・長谷川善和,2003.群馬県上野村小倉山竪穴から発見されたニホンオオカミ頭骨.群馬.

長谷川善和・小原巌・曾塚孝,2004.石灰岩洞窟で発見された九州産ニホンオオカミ遺骸.群馬.

茂原信生,2009.5.石器時代日本犬-長谷部言人.動物考古学.26,千葉県.

柴犬研究,1998~.物語　ニホンオオカミ.50,51,52.

縄文柴犬研究センター,2009,4.縄文柴犬審査基準.JSRC-HP.

五味靖嘉,2012,3.縄文柴犬ノート,精巧堂出版,秋田.

五味靖嘉,2012,5.動物考古学,29・69-84.千葉県.

五味靖嘉,2013,3.動物考古学,30・197-220.千葉県.

シバの散歩道 (28)

JSRC理事 根深　誠（文筆家・釣り師・元登山家）

私もそうだが、シバもずいぶん老けた顔になってきた。白髪が増えたのか、顔が白っぽく見える。体型も心なしか弛んでいる。

この夏で満十一歳を迎えたのだから、いつまでも若々しいはずもない。飼い主は飼犬の老いを見て、わが身を知る、ということなのだろうか。シバは人に譬えれば私と同年輩の六十代後半である。

シバとの散歩を通じて、私は自らの故郷の体質、言葉を換えれば風土と言っていいと思うのだが、そこに潜む病弊、それは頑迷固陋の三猿主義に尽きるとの結論に至っている。推測するに、幕藩体制を支えたムラ社会の名残であり、別な見方をすれば「蟻地獄」にも譬えられよう。

この地方では「喋れば喋った人が悪者扱いにされる」ということで、自らの意見を述べたりすることは好ましくないと見られる風潮が根強く蔓延っている。袋叩きならぬ「足フパリ」に遭うのである。村八分であり、社会的に「亡き者」にされる。

それゆえ、三猿主義は好むと好まざるとに関わらず身についた処世術でもある。何かを問われても「わ、知らね。わ、何も知らね」と、譬えは悪いかもしれないが、イソギンチャクのように身を閉じてしまう性癖がある。

その一方で、実体の伴わない猿芝居のパフォーマンスを演じるボス猿がもてはやされ、人々は付和雷同し「裸の王様」が登場する背景をつくり出す。一見、新しがりやのようだが、その実、鬱々とした代わり映えのしない澱が社会に溜まる。そして、澱から脱出しようとしないばかりか、そこに安住しようとしている。

弘前市役所の「犬猫看板」は、まさにその表徴といえる。「実験」と称するパフォーマンスを広報で宣伝していること自体が全国的にみても異常事態である。指摘されても改善されないのは、異常者には異常な事態を正常にはできないということなのか。

「実験」の結果、どうなったか。「犬と散歩ができる公園」と大きく記載された看板が立ちはじめた。飼犬を連れて、公園であっても市道であっても公然と散歩するのが当たり前の自治体から見たら奇異に映るに違いない。

私の町内にある公園、そこは木が植えられ、草地になっているのだが、その公園にも従来の「犬猫看板」に換わって新しい看板が設置されたので、注意して見ると規制事項が記載されている。

「芝生や植樹帯、土の部分には入れません」樹木が植えられ、芝地になっていて一部、土、つまり地面も露出している公園で、文言を真に受け止めれば、歩け

「犬と散歩ができる公園」の鳴り物入りで設置された看板

川沿いの散歩道の通行を禁じる「犬猫看板」

るところなどどこにもないことになる。これでは、旧来の「犬猫看板」と内実は変わってはいない。これは詐欺瞞着の手法であり、俗にいえばインチキ、もしくはデタラメというのではないだろうか。市民の大多数もこれに迎合している。ここにこそ問題の本質がある。朝夕、毎日二回、公園のそばを散歩するので、それとなく見るのだが、飼犬を連れて歩いている人を見かけたことがない。

それでも市民の何人かは、私の問題提起が奏功したのだと言ってくれる。だが、問題はなんら解決されてはいないのである。それが証拠に、市道に設置されてある「犬猫看板」は依然として通行禁止を強制し、市民としての自由裁量を封じ込めている。

※　※　※

「犬と散歩ができる公園」のマナー講習会を開催する記事が広報に載っていた。

市では、犬と散歩ができる公園として30公園を開放しています。人と犬が共存するためには、マナーが大切です。そこで、青森県動物愛護センターから講師を迎え、マナー向上のための講習会を開催します。

犬のしつけについての講話や、リードを持った歩き方など、実技を交えながらの講習を予定していますので、愛犬と一緒にぜひ参加ください。また、これから犬を飼いたいという人の参加もお待ちしています。

※ 事前の申し込みは不要。当日は、公園内に駐車できます。なお、雨天時は中止となる場合があります。参加料 無料

場所は私が住む町内の、わが家から二百㍍ほど離れたところなので様子を窺いに行ってみた。天気は生憎の雨降り。開催予定時刻を三分ほど遅れて着いたのだが誰もいない。雨天中止なのだから当然ではあるが、それでも前日に準備したとすれば、小中学校の運動会で見られるようなテントが張られてあったりするのではないかと想像したのだ。しかし、テントも見当たらない。

公園には人影すらなかったが、付近の路上に停車し

市街地の目抜き通りに設置された看板

街路樹の切り株にカミキリムシ

ている二台の車に一人ずつ、あたりの様子を窺うような素振りの男が乗っていた。たぶん、関係者だと思ったので確認しようと近づくと走り去った。私は飼犬同伴ではなかったので、たんなる通行人と判断されたのだろう。

しかし、難点を指摘するようで気が引けるのだが、十分程度は待機していたほうがよかったのではないかと思う。私としては、マナーの講習会もいいが、数十メートル離れた路上に設置されている旧来の「犬猫看板」についてどう考えているのか質問したかったのだ。

もちろん、私が納得するような返答は期待できないだろう。このことは先年、公開質問状を市役所に提出したときの「木で鼻をくくった」ような居丈高な回答（弘公園発第57号 平成21年10月30日）で理解できる。その一方で、一般の市役所職員個々人は、煮ても焼いても食えないような人柄とは異なり、至って謙虚な人が少なくない。謙虚なるがゆえに出世できないのかもしれないし、出世すると傲慢不遜になるのかもしれない。この点を確認したかったのだ。

それにしても「犬猫看板」の問題を、マナーにすり替えて片づけようとしている市役所当局にしてみれば、講習会を開催することで後付ではあっても、表向きは「犬と散歩ができる公園」を目指していることになる。中身を吟味する人などほとんどいない。弘前市内に1000個はゆうに設置されている旧来の「犬猫看板」に替わって「犬と散歩ができる公園」の看板が立つようになれば、これはこれで圧巻ともいえる。全国的に見ても、行政による、この奇々怪々なる看板は観光の吸引力になるかもしれない。ただし、これは皮肉。

路上でひき潰されたヤマカガシの幼蛇

※　　※　　※

シバと散歩しながら目につく周囲の景観も、この十一年の間に、樹木が伐採されたり、田んぼやリンゴ畑が放置されたり、カルガモやトンボの姿を見かけなくなったりで、さまざまに変化している。有為転変生々流転のこの世の中だから、日本や、さらには国際社会に目を向けると戦争や政治経済など社会は激しく変動し、地球全体があらゆる分野を含めて、さながらマンダラ模様をなしているかのようだ。

翻って、シバの散歩コースに目を向ければ、「犬猫看板」やゴルフの打球の問題は相も変わらず旧態依然としている。わが故郷のことだから、私としては、知らんふりなどできなくて拘泥せざるを得ない。自分で言うのもどうかと思うが「地球規模で考え、行動は足元から」を日々、実践しながら生きたいものである。

そのためにもシバとの散歩のひとときは、歩きながら考える訓練の場として活用しなければならない。老化防止のために実践するわけではないが、周囲の景観に関心を払っていると、頭脳が活性化されるようで気分がいい。

私の場合、朝は寝坊してなどいられないのだ。朝日が昇るころになると、シバがクンクン鼻を鳴らして騒ぎ立て、うるさい。散歩に行く時間だと告げているのだ。おかげで宿酔するほどの深酒はできなくなった。

夕方の散歩にくらべると朝のほうが、出会う散歩者の数が多い。日々、散歩者が周囲の景観を含む自らの生活環境に関心を払い、考えるようになれば、それが改善の道にもつながる気がするけれど現実は、そうは問屋がおろさないようだ。

散歩者をみれば、周囲の環境に関心を示す人は少ない。音楽に合わせて行進しているのか、耳栓を突っ込み、両手を大きく振って前方を一直線に見据え、軍隊調の歩き方をする人。このタイプは、会話したりジョギングしたりするのと異なり、私にはちょっとマネが

自転車を停めてシバと戯れる少年

できない。狭い遊歩道を申し合わせたわけでもないだろうが、複数の人がそうして歩いているのを見るにつけ、どういうわけか、不謹慎とは思いつつも笑いを噴出しそうになる。

両手を振る代わりにストックを持ち、ときどき立ち止まって回転をイメージしているのか、腰を振ったり、ジグザグに歩いたり、後ろ向きに歩いたりする人もいる。散歩者のなかには、仏頂面して挨拶しない人が意外と少なくない。

十月なかば、秋日和の青々とした空の高みに、編隊を組んで啼きながら渡るハクチョウの姿を見上げ、おお、シバ、ハクチョウが渡って来たな、と話しかけていると、

「あの鳥は何ですかね」

と訊かれたので、私は内心驚いた。冗談やからかったりしているのではなさそうだったので、さては地元の住民ではないなと思った。しかし、地元の方言を話している。生真面目な顔つきの高齢者夫婦だった。

訊きはしなかったが、終の棲家として、都会から故郷に戻ってきたのかもしれない。そういう何人かの人たちと散歩中に立ち話をしたことがあるけれど、いずれも行政の気配りのなさに苦言を呈していた。「井の中の蛙」で鍛えられてはいないのだからやむを得ないのだと思いつつ私は訊いていた。

「あれはハクチョウです。シベリヤから越冬しに来たんですね。春になれば戻っていきます」

「なかなか見事なもんですね。心打たれます」

確かにそうである。「心打たれる」という心境が私には理解できる。

散歩しながら偶然出くわす発見や感動を表現するには短歌が適しているのではないかとの思いに至り、近頃、ヘボ短歌を詠むようになった。四捨五入すれば七十の手習いである。

できれば添削してもらえるベテランがいればありがたいのだが、いまのところ無知なるがゆえの自己流である。食えない料理に似て、稚拙きわまりないのを重々承知で作歌を愉しんでいる。

だからといって、ヘボ短歌をここに掲出するその厚かましさは如何なものか。

ハクチョウの遥かな旅路啼きながら
秋は南へ春は北へと

空たかくハクチョウの群れ啼き渡る姿たけくも
地球のリズム

ハクチョウの渡る啼き音ぞ空に聴く
秋の夜更けに雨の降りやむ

ノコンギク咲く草つゆの散歩道
シバちゃん元気？と声をかけられ

草つゆに濡れ、道端に咲くノコンギク